

# 羽田空港で電動車いす

## 自動走行を実証実験

JALなど3社

空港ターミナル内を電動車いすが自動走行する実証実験が2、3両日、羽田空港で行われた。日本航空（JAL）、日本空港ビルデング、WHILL株の3社が、すべての空港利用者に安全で快適な移動を提供するために実施した。

実験は、自動運転・衝突回避機能などを搭載したWHILL社の電動車いすに体験希望者の男性が乗ってスタート。第1ターミナル南ウイングの保安検査場Bの出口付近から3番搭乗口までマニュアル運転で走行した。乗った男性が降車後、無人の車いすが元の場所まで自動運転で戻る形で行われた。万全を期し、車いすには3社のスタッフが付き添った。

男性は、約1分間の

操作説明を受けた後、

ジョイスティックを操作して通路を移動。車いすは途中で通行客などにセンサーが反応して自動停止する場面もあったが、往復約400メートルを最高時速3キロと、人がゆっくり歩く程度のスピードで安全

走行した。2日間の実験は数十組が体験した。8割以上がこれまで空港スタッフの手押し車いすサービスを利用したことになかったが、「空港内は歩く距離が長いのでこうしたサービスがあるとありがたい」と体



自動走行付き電動車いすで空港内を移動する男性

験者には好評だった。

JAL広報担当者によれば、第1ターミナルは、端から端まで800メートルあり、1日約100組が手押し車いすサービスを利用している。車いす利用者だけでなく、長時間の歩行が困難な高齢者も多いという。電動車いすで空港内を自由に移動できれば、スタッフに気兼ねすることなく、好きな場所に行けるようになり、精神的負担の解消にもなると期待する。

実験は今後、オランダのアムステルダム空港や米国のダラス空港などでも行われる予定で、3社は2020年の実用化を目指す。また、WHILL社は、駅や大規模商業施設での利用も視野に入れている。（井口拓治）